# 広報 いちき串木野

R8．1．5 発行

1

新年号

## 馬力全開
## スタートダッシュ!!

いちき串木野市公式LINE

イベント情報など配信中！ぜひご登録ください

# 新年のごあいさつ

いちき串木野市長
中　屋　謙　治

## 新年あけましておめでとうございます

市民の皆様には、健やかで輝かしい希望に満ちた新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また平素より、市政に深いご理解とご支援を賜っておりますことに対し、年頭にあたり厚くお礼申し上げます。昨年 11 月の市長選挙において二期目のいちき串木野市政運営の重責を担わせていただくこととなりました。皆様からお寄せいただいた期待と責任の重さに身の引き締まる思いでいっぱいです。愛する郷土“いちき串木野”を、未来に誇りをもって引き継ぐことができるよう、一段の躍進を期して市勢発展に邁進することをお誓い申し上げます。

### 市制施行 20 周年

昨年は、本市の市制施行 20 周年を迎える節目の年として、各種イベントを「20 周年記念事業」と位置付け、積極的に取り組んできました。そして、10 月 11 日には、市民の皆様や関係者のご臨席を賜り、記念式典を厳粛かつ盛大に執り行うことができました。これまでの 20 年間の歩みを振り返り、ご尽力いただいた皆様への感謝の意を表するとともに、これからの 20 年、更にはその先におけるいちき串木野市の未来に向けて、さらなる飛躍の決意を新たにする機会となりました。

### イベントを振り返る

１月には３回目の実施となる「いちき串木野ロゲイニング～冠嶽八十八か所巡りウォークラン～」を開催し、霊山性・歴史性豊かな冠嶽や山の麓の魅力を体感しながら、元気いっぱいにウォークランを楽しみました。

２月には「冠嶽トレイルinいちき串木野」が開催され、クラウドファンディングを活用して整備されたアップダウンに富んだコースを、雪が残る中、参加者が思い思いに走り抜けました。コース上の給水給食ポイントとなるエイドステーションをはじめ、ゴール後のまちづくり協議会の「おいしく、ひといき。」できる振舞いも好評で、疲れた選手の心と体を癒してくれました。

３月には串木野新港と甑島を結ぶ新旧フェリー船の交代が行われました。最終運航を迎えた

「フェリーニューこしき」は串木野さのさ踊りの披露や大漁旗などで多くの方々に見送られながら22年間の航海に幕を閉じました。そのあとを受けて就航した、新造船フェリー「結（ゆい）LINE（らいん）こしき」は、就航式で記念式典やイベントが開催され、多くの方が体験クルージングやイベント会場を訪れ、にぎやかに新船の就航を祝いました。甑島と本土を結ぶ懸け橋として、人と人の絆を温かく結ぶ存在として愛され育っていくことを心から願っています。

パークゴルフ場は老朽化した施設を更新するとともに、管理棟周りに新たにテラスを設け、ゆっくりくつろげる休憩スペースを拡充するなどリニューアルしました。立地の良さに加え、充実した施設がさらに人気を高め、世代を超えたスポーツ交流の場として期待されます。

４月、春の風物詩の「串木野浜競馬大会」が天候にも恵まれて開催されました。浜競馬ならではのゴール前で止まる馬やちびっこ騎手の活躍などほほえましい場面から、見ごたえ抜群のサラブレッドの競走まで、ポニーや輓馬、中半血種の合計61頭のレースで盛り上がりました。

国登録有形文化財である「市来大迫家住宅」の一般公開が始まりました。100年を超える大正時代の美しい建築技術が随所に施されており、大切に守りつないできた歴史を多くの方に感じていただけるようにとの想いで開放されたもので、隣接して「ミュージアムカフェ舟」も開設されています。

６月、薩摩藩英国留学生渡欧160周年を記念した黎明祭が盛大に開催されました。10年ぶりの上演となった羽島青年学級による演劇「夢遥かなり'25」では、会場が大きな拍手と喝采の渦に包まれました。また、留学生記念館においては現在、長沢鼎ら５人にスポットをあてた記念企画展「ファイブソウルズ」が開催されています。

７月には、「串木野さのさ祭り」と「さのさ元気横丁」が同時開催されました。また、「いちき串木野サマーフェスタ」と「市来湊祇園祭」も同日開催され、本市の夏を彩る恒例行事が行われました。それぞれの歴史や文化を感じられるこれらのイベントは、先人先達への感謝の気持ちを込めながら、さまざまな団体の皆様が一体となってそれぞれの想いを引き継いでいただいています。

11月には「産業まつり～地元まるごとフェス！～」が本市の情報発信と、産業振興、地域経済の活性化を図るため、「食べて・学んで・体験」をテーマにさまざまな工夫を凝らして行われました。このほか当日は、市内各地で様々なイベントが開催され、本市の産業やまちの魅力が詰まった満足感たっぷりの１日となりました。

## 市の施策を振り返る

この１年、これからのまちの発展に向けてさまざまな施策に取り組んできました。

長崎鼻公園をリニューアルし、幅広い世代の交流の場とする整備事業をはじめ、安茶工業団地の造成や、旧冠岳小学校跡地を活用した民間事業者による施設の整備がすでに始まっており、それぞ

れ令和８年中の完成予定となっています。

令和９年度を始期とする第３次総合計画の策定は、2040年を見据えて、市民と行政が一緒になってワークショップを始めています。洋上風力発電計画については昨年４月、本市沖合海域が再エネ海域利用法に基づく候補地として、県から国への情報提供が行われました。現在、準備区域として整理されており、今後の進展が期待されます。

## 若い世代の活躍

昨年も高校生の活躍がまちに大きな希望を与えてくれました。神村学園は全国高校総体の男子サッカー競技において、鹿児島県勢初となる優勝を果たしました。快挙を果たした同校サッカー部は、決勝戦後も練習試合を重ねて本市へ凱旋。その晴れやかな姿とさらなる成長を目指す姿勢に胸を打たれました。市来農芸高等学校は「食品産業もったいない大賞」において「農林水産大臣官房長賞」を受賞、串木野高校ではアーチェリー部がインターハイ決勝トーナメント進出など懸命に挑戦する姿が輝いています。

## まとめ

こうして振り返ると、市民の皆様の主体的な行動や温かい支えにより、さまざまな動きを実感できた年でありました。これまで受け継がれてきた歴史と伝統、文化をはじめ、地域の特色、強みなど貴重な資源に磨きをかけ尖らせて、まちの魅力として高めて未来を担う子どもたちへとつないでいきます。

## 新年を迎えて

地球環境の悪化とともに異常気象による林野火災や豪雨浸水被害など、国内でも自然災害は激甚化、頻発化しています。さらに物価高騰による経済活動や日常生活への影響も大きいものがあり、世界情勢も不安定さを増しています。こうした厳しい状況は当面続くと思われますが、我々はこれらに対応しながら、迅速に柔軟で適応力のあるまちづくりを進めていかなければなりません。

令和８年は干支では「午（うま）年」にあたります。古来より馬は行動力と機動力、そして人々の暮らしを支える力強い存在として豊穣や繁栄の象徴とされてきました。また「午」は太陽が最も高く昇り、一日の活力が最高潮に達する時刻を意味し「勢いが増す」「物事が大きく伸びる」年とされています。

私はマニフェストに「ワクワクするまちづくり2.0」を掲げました。「誇りと愛着」「存在感のあるまち」を目指して、人口減少対策や魅力あるまちづくりなど、これまでの取組をベースにさらに議論を重ねてレベルアップさせ、併せて市民の皆様の声に丁寧に耳を傾けながら、力強く未来につながる市政を進めたいと思います。

結びに、本年が市民の皆様にとって実り多く、夢と希望に満ちた一年となりますよう、心からお祈り申し上げ、併せて本市の更なる発展に向けて変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げ、新年のごあいさつといたします。